土木学会第４１回年次学術講演会（昭和６１年１１月）

Ⅳ－197

日本の都市における広場の特性に関する研究
ー東京周辺の広場を事例としてー

（株）カーター・アート環境計画　○　正員　尾形　俊幸
茨城大学　工学部　正員　笹谷　康之
茨城大学　工学部　正員　小柳　武和

1　研究の背景と目的

西洋において広場は、宗教的に、軍事的に、そして生活する上での市場やコミュニケーション等の場として重要な位置を占めてきた。そのため、広場は古く古代ギリシア時代から都市の中心部に大きくとられ、都市と共に発展してきた。

翻って日本の広場を考えると、鎮守の杜という多目的に使われる空間はあったものの、広場という明確な空間を形成することはなかった。最近では日本でも、広場に対する関心は高まってきているが、西洋の広場と、日本のそれとでは性格を異にすると考えられる。

そこで本研究では、定評のあるとされる広場（主に東京、横浜）の特徴を利用状況、イメージおよび空間特性から捉え、日本の都市における広場の現状、問題点を考察することを目的とする。

2　研究の方法

2－1　調査対象地点の選定

対象とする広場は、駅前広場、公開空地、街角広場、歩行者天国で、その他比較材料として都市公園を加え、東京２０箇所、横浜７箇所など、計２９箇所の広場、公園を調査対象として選定した。（表－１）

2－2　調査の概要

1）　調査期日　：　１９８５年１２月から１９８６年１月末にかけて、対象地点の現地調査を行った。

2）　調査項目

1 利用状況の調査：　対象広場内における利用状況の観察（主に、利用目的の調査）。

2 イメージの調査：　対象広場の雰囲気を表す形容詞を自由発想法でヒアリングした。また対象広場の囲まれ感の有無をヒアリングした。

3 物的調査：　天空率を求める調査（魚眼レンズを使った写真撮影）、広場内施設の配置および周囲の建物の配置と建物高（Ｄ／Ｈ）の調査。

3）　ヒアリングの回答者：１箇所につき約１０人をランダムに選んだ。

2－3　調査結果

1）　利用状況：　「通路」、「待ち合わせ」、「休憩」、「イベント参加」、「見物」の５種類が各広場の特化した活動として観察できた。

2）　イメージ：　景観的な評価、活動性に関する形容詞が多く採集できた。それらは、「きれい」、「すっきりした」、「落ち着いた」、「広い」、「面白い」、「活気がある」に大別できる。また、囲まれ感の有無については、各広場ともヒアリング結果がほぼ一致し、有るとされたのは１７箇所、無いとされたのは１２箇所であった。

3）　物的調査：　対象広場の天空率は、２０～８０％までほぼ均一に分散していた。また、視点を広場の中心（人の集中する地点）に置いた場合のＤ／Ｈは０．１５～７．０に分散していた。

3　広場の類型とその特性

利用状況を５分類、５カテゴリー、雰囲気を表す形容詞の「きれい」、「すっきりした」、「落ち着いた」「面白い」、「活気がある」をそれぞれ「総合評価」、「統一性」、「居住性」、「親密性」、「活動性」

の５分類として、＋、－づつ１０カテゴリー 、囲まれ感の有無を２カテゴリー、天空率を２０～８０％を２０％づつ３カテゴリー をカテゴリーとして広場を数量化理論Ⅲ類で分類した。

その結果、広場は下の３つのタイプに大別できた。これは観察から広場を分類した結果と一致している。

1　オフィスビル前庭型広場：　公開空地が多く当てはまる。建物へのアクセス路としての利用が多い。この種の空間は、囲まれ感があり、天空率が小さく、総合評価、統一性がプラスという結果がでた。

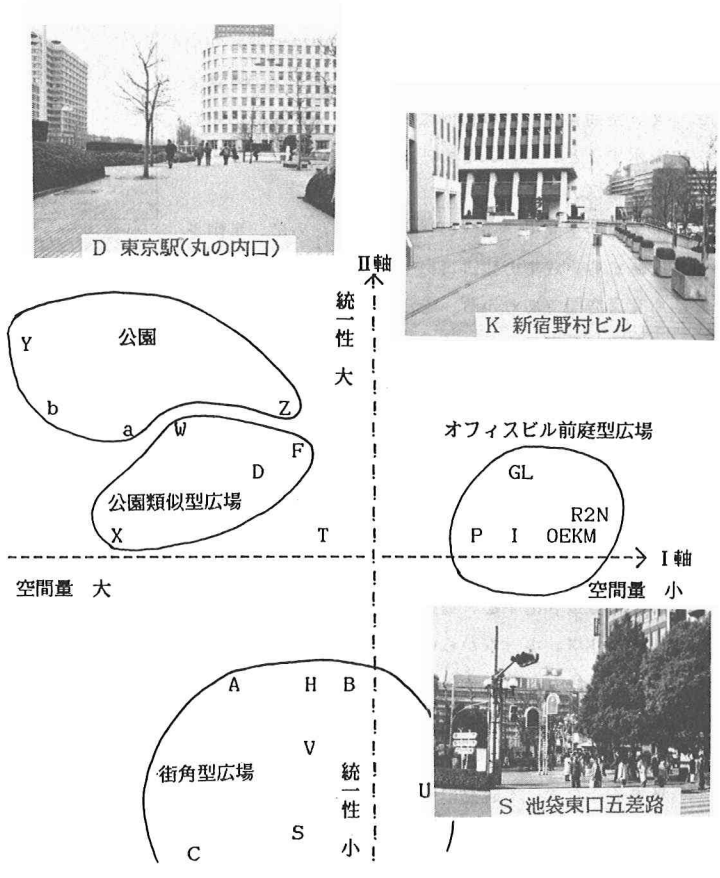
2　公園類似型広場：　利用状況として休憩が多い。天空率が大きく、居住性がプラスという結果がでた。

3　街角型広場：　待ち合わせに利用されることが多く、活動性がプラスという結果がでている。

また、調査対象広場の中で特色のあるものとして、(1)　周辺環境と広場の形態が結びついて、広場のイメージを高めている（新宿歌舞伎町ヤングスポット）、(2)　２つの性格の異なる広場が隣接し、統一性を見せている（日比谷シティ）、(3)　広場の中にカフェテリアが融合している（新宿三井ビル　５５ひろば）が挙げられる。

表-１　調査対象広場

分　類	対象地点
駅前広場	A 渋谷駅(北口) B　〃　(西口) C 新宿駅(東口) D 東京駅(丸の内口) E 関内駅（横浜） F 本郷台駅（横浜） G 仙台駅
公開空地	H 池袋サンシャインシティ I 新宿住友ビル J 新宿センタ-ビル K 新宿野村ビル L 新宿三井ビル M 第一勧業銀行（２ヶ所、東京） N 大和生命ビル（東京） O 日比谷シティ（イベント広場） P ペア広場（横浜、県民ホール側） Q ペア広場（横浜産貿センター側） R ユニバーサル証券ビル（仙台）
街角広場	S 池袋東口五差路 T 銀座ソニービル U 渋谷１０９ V 歌舞伎町ヤングスポット W 開港広場（横浜）
歩行者天国	X 原宿(都道413号)
公園	Y 皇居外苑　a 港の見える丘 （皇居前広場）　公園（横浜） Z 日比谷公園　b 山下公園（横浜）



図－１　数量化理論Ⅲ類による調査対象地点の分類結果
（記号：表－１対照）

４　結論

日本の都市の広場は、オフィスビル前庭型、公園類似型、街角型の３つの種類に大別できた。日本の都市における広場は、その機能を特化しながらも発展していることがわかる。

また、対象とした駅前広場が３つの型に分散して属することから、その多様性が知られる。

広場を観察した実感によると、機能が特化したために、渾然一体とした活動の場、生活に密着した場としての広場の魅力が欠けている点が問題だと考えられる。これら３つの型を包括する広場が、理想の広場といえるだろう。今後、これらの広場の特徴をより深く解明し、多機能を合わせ持った広場の設計が望まれる。